

## 令和6年度第1回一関市博物館協議会 会議録

- 1 会議名 令和6年度第1回一関市博物館協議会
- 2 開催日時 令和7年2月13日(木) 午後2時から午後3時45分まで
- 3 開催場所 一関市博物館 研修室
- 4 出席者
  - (1) 委員 熊谷常正委員(会長)、砂金文昭委員(副会長)、小笠原浩委員、千葉信胤委員、佐野修弘委員、千葉幸子委員、菅原真利子委員、平澤広委員、齊藤三郎委員、佐藤浩委員、松岡千賀子委員
  - ※ 欠席者 青沼徹委員、佐藤禎信委員、佐藤泰彦委員、佐藤憲一委員
  - (2) 事務局 時枝直樹教育長、菊池勇夫博物館長、佐々木修路博物館次長、相馬美貴子博物館副館長、大衡彩織博物館副館長兼学芸係長、滝澤清博物館副館長兼庶務係長、小味浩之博物館主任学芸員

### 5 議題

- (1) 令和6年度博物館事業の取組状況について
- (2) 令和7年度事業計画について

- 6 公開、非公開の別 公開
- 7 傍聴者 なし
- 8 時枝直樹教育長挨拶

本日はお忙しい中、お集まりいただき御礼申し上げます。また、一関市の教育行政、博物館運営につきまして、日頃よりご協力とご指導を賜り重ねて感謝申し上げます。一関市博物館では、昨年9月に、新型コロナウイルス感染症により延期していた特別展「江戸の大名屋敷」を開催し、5,576人に観覧いただいた。また、企画展については、4月に「菅原清蔵の民藝コレクションに見るボタニカルデザイン」、7月に「祈りの中の動物たち」を開催し、現在は1月25日から「暮らしのなかの道具」と題し、一関周辺で使われてきたむかしの道具や資料を中心とした展示を行っている。このほか、各種講座や体験学習等、年間を通し、地域の歴史や文化を親しみながら学んでいただくよう、様々な事業に取り組んでいる。昨年7月25日に今年度の第1回博物館協議会を開催したが、会議が不成立となり、本日が本年度第1回目の博物館協議会である。本日の会議では、本年度の事業実施状況と次年度の事業計画についてご説明させていただく。委員の皆様には忌憚のないご意見をいただきたい。

## 9 菊池勇夫博物館長挨拶

令和7年は戦後80年という年になる。戦後社会がどのような歩みをしてきたのか、振り返る機会が多くなるのではないかと考えている。現在、企画展「暮らしのなかの道具」を開催しているが、既に生活の中から消えてしまった道具類もあり、懐かしさと共に、戦後社会の変化の激しさを改めて感じている。今回の展示が暮らしの中から戦後80年について考える機会となればと考えている。現代は大量消費社会なので、物がどんどん廃棄されていく。普段の暮らしの道具や資料を後世に遺していく、そうした役割も博物館の重要な仕事のひとつと考えている。当館の最近の活動について、2点申し上げたい。一つは大槻家資料の保存活用等に関して、令和5年6月に重要文化財に指定され、特別展を開催した。今年度は、11月に専門の研究者をお呼びして、幕末の対外情勢と大槻家というテーマで研究報告会を開催した。また、当館が編さんした「学問の家 大槻家の人びと 玄沢から文彦まで」という本を刊行している。学問を通じて近代の扉を開いた大槻家の人々が、社会にどのように向き合い、何を成し遂げようとしたのか、来年度以降も研究報告会や展示といった色々な活動を通して、最新の研究成果を市民の方々に伝えていけたらよいと考えている。もう一つは骨寺村荘園遺跡村落調査研究についてである。残念ながら世界遺産「平泉の文化遺産」への拡張登録を目指す構成資産の候補から外れ、非常に悔しい思いだったが、そのことによって骨寺荘園遺跡の歴史的価値が失われることはなく、調査研究は今後も当館の事業として継続していくことになろうかと思う。今年度は講座「骨寺大学」を、かつて行っていた研究報告会の形に変更し、2月16日に開催する予定である。これまでは大石直正先生、人間田先生の両館長の元で調査研究が進められ、大きな成果を生み出してきたが、新たな担い手、若い人にバトンタッチしていく時期を迎えているのかなと思う。ここ2・3年は私を含め、調査研究の行き詰まりみたいなものを感じていたが、このところ新しい研究の展開の兆しも見えて来ているように感じている。今度の研究報告会で、そうしたところが報告、紹介されるのではないかと考えている。新しい方々にうまく引き継いでいきたい。今後とも皆様にはご指導ご支援を賜りながら、活動を進めていければと考えている。

## 10 協 議

### (1) 令和6年度博物館事業の取組状況について

資料「協議1」に基づき事務局から説明を行った。以下、質疑応答等。

委 員 1点目、企画展2「祈りの中の動物たち」について、令和7年が戦後80年となることに関連して、戦争と動物をテーマとした取組を行ってみてはどうか。2点目、骨寺村荘園遺跡村落調査研究について、多角的な視点とあるが、どのような視点か。

事務局 1点目の戦争と動物について、展覧会をするとなると、もう少し調査が必

要かと思う。頂いたご意見については、今後に反映させたい。2点目、骨寺村荘園遺跡村落調査研究における多角的な視点について、考古学、民俗学、文献史学、自然科学的な要素も含めて、様々な面からアプローチして「骨寺」を解明しようとするもの。

委員 戦争と動物について、人間に関することはテレビなどでもよく取り上げられるが、動物についてはなかなか取り上げられない。人間も動物も、戦争が始まるとどうなってしまうのか、助け合って生きていかなければいけないという視点が必要だと思う。骨寺村荘園遺跡村落調査研究については、世界遺産はもう無理なのではないかという諦めムードがある。中世の村落の部分を訴えた方が良いとの意見もある。

事務局 環境や気候の変化も動物にとって大きな問題であろうかと思う。そうしたものも絡めながら、自然と人間と動物の関わりを戦争の問題も含めて考えていくということは、これからの社会を見通す場合の大事な視点かなと思う。

委員 特別展「江戸の大名屋敷」は非常によかった。関連行事も何度か参加したが良い内容だった。

委員 一関市博物館は伝統的に研究活動をベースにして様々な活動を支えているところが大きな特徴ではないかと思う。大槻家関係資料保存活用事業は、今後もこの博物館の軸として展開していただきたい。東日本、日本全体の近代の蘭学を含む民間学の拠点として、一関の大槻家を軸とした活動が見えてくるのではないか。

委員 文化芸術振興基本法の改正に伴い、文化芸術基本法となり、文化芸術に関する施策についても、従来の社会教育機関としての役割と合わせて、観光等の施策との連携が求められている。巖美溪に隣接する施設として、巖美溪を活用した観光事業との連携が出てくるのではないか。これまで道の駅との連携事業は行っているが、観光サイドの巖美溪の状況と博物館の活動をどのようにリンクさせていくか、考えがあれば教えてほしい。例えば、公開承認施設等も将来的に付随してくると思う。今から検討しておく必要があるのではないか。

委員 登録博物館の再登録の申請についてはどうするのか。調査研究だけでなく、観光や地域との交流等を踏まえての活動となると思う。花巻市は来年度に全施設を対象として再登録する予定となっている。

事務局 再登録については令和9年度に行う予定となっている。観光や地域との連携については、これからとなる。

委員 文化芸術振興基本法の一部改正が公布されたのが平成29年で、県内で文化芸術基本条例を制定しているのは北上市だけである。岩手県には文化芸術振

興基本条例がある。それにより県の施設は登録を切り替えていくのではない  
か。

委員 文化観光や地域に根差した実践と社会教育施設という二つの柱が求めら  
れる。一関市博物館は調査研究では全国に誇るべき実績を持ち活動している  
が、それにプラスして観光面をやっていかなければいけない時代になってき  
た。全国的な状況、動きは鈍いが、検討していただきたい。

事務局 観光面で言うと、巖美溪や道の駅という話もあったが、岩手県が主導して、  
世界遺産平泉の関係する平泉町、奥州市、一関市などで構成する「いわて県  
南歴史・文化観光推進協議会」を設立し、観光客、特にインバウンド対応の  
取組を進めていく。「いわて平泉歴史文化観光地域計画」が国から認定を受  
けた。当館では来年度、展示解説関係の多言語化に取り組んでいく。

委員 事業の取組全体的に、非常にきめ細かい活動をしている印象を受けた。そ  
の他に研究報告会や報告書や書籍の刊行、展覧会でも図録等を作成しており、  
非常に頑張っているなどと思う。このスタッフのほかに、臨時職員等はどれく  
らいいいるのか。

事務局 臨時的雇用の職員も数人いる。

## (2) 令和7年度事業計画について

資料「協議2」に基づき事務局から説明を行った。以下、質疑応答等。

委員 「その他」に施設改修等に伴う臨時休館とあるが、どのような改修を予定  
しているのか。

事務局 非常放送設備の更新、展示室照明LED化改修、空調設備改修等を予定し  
ている。

委員 常設展示室は前より明るくなったが、近づいて見たい資料に未だ暗いところ  
がある。要望だが、普段は暗くてもよいが、人が近づくと明るくなるよう  
な設備を導入してもらいたい。

委員 資料は光を嫌うものもある。公開承認施設なので、基準をきちんとクリア  
するよう配慮してほしい。

委員 年度をまたいで開催する企画展「暮らしのなかの道具」について、延長し  
て年度をまたいで開催する理由を教えてほしい。5ページの骨寺村荘園遺跡  
村落調査研究報告会について、「仮称」と付いている。定員も今年度の2倍  
の100人になっている。今までと違った変化をつけるということか。

事務局 企画展「暮らしのなかの道具」について、冬期間はどうしても入館者が減  
るが、春になると増加する。学校も新年度に入る時期で、子どもたちを中心  
に活動的になる季節に、多くの人に来てみたい気持ちになっていただけ  
るよう、春まで延長してみようということになった。骨寺村荘園遺跡村落調査研

究報告会については、今年度初めてこのような形で2月16日に開催する予定。ポスターを作成したが、タイトルがちょっと長すぎるので、もう少しテーマを絞って、分かりやすく伝えられる文言にできればと思い、「仮称」としてある。定員については、ポスターやチラシ等を作成して、広報を展開し、もう少し多くの人に参加していただきたいということで定員を増やしている。

委員 3ページの講座「紙の文化史—入門編—」について、和紙というと東山和紙を思い浮かべる。先程、観光や地域住民との関わりについても考えていかなければならないと伺ったので、ご存じかと思うが、地域おこし協力隊の隊員が東山和紙で活動しているので、隊員も参加して実際に和紙を見て触ってもらう体験を取り入れてはどうか。もう1点、「超初心者のため絵の見方」について、作品鑑賞の楽しさを伝えるとあるが、どのような内容か。受講者はどのような年齢層だったのか。どのような感想があったのか教えてほしい。

事務局 「超初心者のため絵の見方」について、定員を少なく設定して、絵を実際に手にとってもらったり、額縁から取り出して実際の構造を見てもらったり、なるべく近くで作品を見てもらった。作品鑑賞の楽しさは会話を楽しんでもいただくことを中心に考え、普段の展示会の会場ではできない体験を提供した。年齢層については30代から80代くらいの方が多かったが、博物館としては世代よりも関心を持った方を大事にしたいと考えているので、年齢層は特に意識していなかった。いい感想をたくさんいただいている。和紙については、いただいた意見を参考にしながら、入門編ということで、そこまで来年度に取り入れられるかどうか分からないが、できる限り検討したい。

委員 特別展「千葉胤秀生誕250年記念 算額の世界」について、常設展示に加えて、市内の神社やお寺の算額を借りて来るのか。あるいはこの機会に複製を作るといったところまで考えているのか。

事務局 県内のほか、東日本から一番古い算額の複製品や特色のある人の絵の描いてある算額等を紹介して、千葉胤秀が広めた和算の世界を感じてもらおう予定。複製については、大変だと思うので、算額の内容を書き起こして紹介したものがあるので、一関の算額を広く知ってもらう機会としたい。

委員 特別展「千葉胤秀生誕250年記念 算額の世界」について、岩手県南史談会、花泉町先人顕彰会、岩手県和算研究会の3団体から、千葉胤秀旧宅の復元保存についての請願書が提出され、平成30年8月に採択された。報告書までは発行されたが、老松にある旧宅の復元に向けて、今回の千葉胤秀生誕250年の機会に、千葉胤秀の顕彰活動を具体的に進めるよい機会と思っている。もう1点、赤荻から山目一帯が幕末から明治にかけて、算額を習っている人がたくさんいたという言い伝えがまだ残っている。算額と地域、算額と生活

についての研究を深め、地域に根付いた教育文化を証明できる機会なので、今回の特別展の中で、何らかの形でこの2点について関わってもらえるとよい。

委員 今の発言に同意見である。よろしくお願ひしたい。

委員 フェイスブックに展覧会の動画が4本アップしているが、無音なので、音楽があった方がよい。より博物館に行ってみたい気持ちになるのではないか。今はX（旧ツイッター）よりもインスタグラムの方が利用度が高く、多くの方が見ているので、情報発信してもらいたい。

事務局 令和6年度を取組状況のところで、観光面との連携や登録博物館の再登録について、情報提供いただき、お礼申し上げる。教育委員会と博物館が中心になると思うが、市とも協議が必要かと思っている。

## 11 その他

事務局から全体に対して意見を求めた。以下、意見等。

委員 80代近い方が、博物館の展示を見ると心も穏やかになって、視野も広がりとてもいいが、車の運転ができなくなってくるので、もう博物館に行けないと言っていた。関心があるのに博物館に行けないというのは残念に感じた。バスもあるが、停留所が遠い。博物館と興味のある方をつなぐアクセス手段があるといいのかなと感じた。

事務局 博物館は年齢層の高い方の利用が多いため、交通の便が課題と感じている。

## 12 担当課 一関市博物館